

「日本子ども学会」(Japanese Society of Child Science)は設立後4年になり、徐々にだが、確実に発展している様子が見られる事は大変嬉しい。

2006年9月神戸で行われた第3回「子ども学会議」では、「子ども学」の理念は何か、体系はどうつくるか、どんな事をすべきか等が話し合われた。その結果「子ども学」は、人間科学のひとつとして、学際的であると同時に環学的な、還元的であると同時に統合的な文理融合科学に位置付けられる事は、皆さんの合意を得られたものと思う。これからの話し合いで「子ども学」を何とか体系付けたいものである。

嬉しい事に、小西国際交流財団のご支援で「子ども学」に関する本を学会として出版する事になった。子どもの事を考える時に、手元に開いて役に立つ知識が得られるような、また、知識を確かなもの出来るような本にしたいと思っている。出来上がるのが楽しみである。

会員一同の更なるご協力とご支援により、「日本子ども学会」をより大きな、意義ある学会にしようではありませんか。

日本子ども学会代表 小林 登

第3回子ども学会議 開催報告

平成18年9月2日(土)ー3日(日)の2日間、甲南女子大学にて、第3回日本子ども学会議を開催しました。甲南女子大学は、平成8年に本学会代表の小林登先生が「子ども学」講座を開き、平成10年には「国際子ども学研究センター」が開設されたところです。

関西で初めて開催された日本子ども学会の子ども学会議には、学会員69名、一般91名、学生35名、招待者7名、計202名のほかに本学の教職員が参加しました。内訳は、大学関係者が半数ほどを占め(「一般」の大学関係者は、子ども学関係の学部・学科関係者が多い)、そのほかは、幼稚園・保育園関係者、その他、子どもに関係する施設、企業やNPO法人の方などでした。

今回の全体テーマは『子ども学の未来を考えよう』で、基調講演「子ども学の歴史的背景と今後の展開を考える」を小林登先生に、特別講演Ⅰ「子どもをめぐる現在(いま)」を前お茶の水女子大学長の本田和子先生に、特別講演Ⅱ「物や環境が行為に与えていること」を東京大学教授の佐々木正人先生にお願いしました。シンポジウムは「大学教育から子ども学の未来を考えよう」「現場から子ども学を考えよう」の二つを設けて、21世紀にまさに立ち上がりつつある「子ども学」に関わる様々な立場の方々が、「子ども学」の歩むべき今後の方向性を探るための議論を繰り広げました。

さらに今回は、「子ども学」の主人公である子どもたちにも、これまでにない取り組みとして「子ども参画事業」に参加してもらいました。子どもが生き生きと学べる学習環境を作り上げるにはどうしたらよいかを、子ども参加型のワークショップの中から発見していこうとする試みで、学会参加者に直に感じとってもらいました。このほか要望演題では、「子ども学」に学会発足当時から深く関わっている方に「子ども学」に対する熱き思いを語ってもらい、ポスターセッションでは18の発表がなされました。

子どもを取り巻く厳しい環境が毎日のようにニュースになる今日、子どもと真正面から向き合う「子ども学」の必要性とその重要性を改めて認識することができた2日間でした。

(甲南女子大学 一色伸夫)

「子ども学」に関する「出版プロジェクト」 進捗報告

「子ども学」に関する本を出版することで、子ども学の認識が深まり、啓発活動が促進されることを期待し、今年度から「子ども学」に関する出版プロジェクトを立ち上げました。

どのような内容がよいか、出版の方向性については、第3回子ども学会議の会場で会員の方々からアンケートを取りました。編集方針として重視すべきとして挙げたのは「子どもの視点」「最新の学問動向」「実証データ」です。また、テーマとしては「メディアと発達」「脳科学と教育」「発達障害」「育児支援」への関心の高さがうかがえました。本の形態としては専門性を大切にしながらも一般の人でも読めるような啓発書としての役割を期待する声が多くありました。

現在、これらの結果を受けて運営委員のもとで話し合いを進めており、最新の学問成果や実証データを反映させながら、現代の子どもを考える上で必要とされる視点を網羅した用語集を企画しています。

(日本子ども学会事務局長 木下真)

後援について

今年度に入り、後援名義の申請が学会事務局に入るようになりました。運営委員会で検討をした結果、学会のPRと新たな人脈開拓につながり、かつ費用がかからない内容であれば、後援名義を出すことにしました。

2006年11月現在、後援名義を出したものは次の3点です。

1. 博物館特別展「掘り出された<子ども>の歴史ー石器時代から江戸時代までー」
会期：2006年10月7日～12月10日、主催：明治大学博物館
2. 国際コロキウム・公開講演会「ヒトの成長パターンと言語能力の進化」
日にち：2006年10月28日、主催：総合研究大学院大学・葉山高等教育研究センター
3. 国際シンポジウム「「子ども学」から見た少子化社会」
日にち：2007年2月3日、主催：チャイルド・リサーチ・ネット(CRN)

今後も後援名義の申請は受け付けますので、ご関心のある方は、スケジュールに余裕を持って、学会事務局までご相談ください(学会ホームページ右上の「お問い合わせ」フォームもご利用いただけます)。なお、検討の結果、後援名義をお出しできない場合もございますので、予めご了承ください。

(CRN、日本子ども学会運営委員 所真里子)

第4回子ども学会議は9月15日、16日に慶応義塾大学(三田)にて

今回の大会テーマは「子ども学と生命科学」です。子どもは生命力のかたまり。いま子どもたちは、脳神経科学、遺伝学、小児科学、進化心理学、人工生命など、さまざまな生命科学の分野から熱いまなざしが向けられています。生命科学と聞くと、なにやらむずかしそうと思われるかもしれませんが、きっと身近なところに興味深い発見や驚きが見つかるはず。いま、多くの方にご参加いただけるよう、講演者の人選やプログラムを検討しているところです。ご要望やご提案がありましたら、ぜひお聞かせください。来年9月に三田キャンパスでお会いできるのを楽しみにしております。

(第4回大会推進委員長 安藤寿康)

学会誌『チャイルド・サイエンス VOL. 3』 発刊

今年度より学会費を改訂し、会員の皆様全員に学会誌をお届けできるようになりました。過去2号は学術集会の抄録が中心でしたが、今回の第3号より編集方針を見直し、多くの会員の方々に執筆をお願いしました。専門性の高い学術論文だけではなく、ご自分の活動領域を紹介していくような学際的な学会にふさわしい形での寄稿をお願いしたのです。学会誌を一つのきっかけとして、各々の会員の専門領域の情報が会の運営主体にフィードバックされ、会員相互の交流も深まるような仕組みをつくっていかねばと考えています。

(学会誌編集委員、日本子ども学会事務局長 木下真)

学会誌バックナンバーのご紹介

日本子ども学会では、学会誌のバックナンバーの販売を随時行っています。この機会にぜひお手にとってみませんか？ VOL1には当学会の設立総会での熱気溢れる「子ども学」議論が、VOL2にはメディアの問題をエビデンスをもとに議論した記録が、読みやすくまとめられています。

『チャイルド・サイエンス VOL.1』(2004年8月発刊・44ページ)

もくじ

- 「子ども学と進化生物学」 佐倉 統(東京大学大学院情報学環)
- 「シンポジウム・子ども学の視点 文理融合科学の可能性と課題」
司会:宮下 孝広(白百合女子大学文学部)
パネリスト:麻生 武(奈良女子大学大学院人間文化研究科)、榊原 洋一(東京大学医学部)
佐倉 統(東京大学大学院情報学環)、開 一夫(東京大学大学院総合文化研究科)
- 「子どもの社会力」 門脇 厚司(筑波学院大学)
- 「ユニヴァーサルデザインと子ども文明」 石井 威望(東京大学名誉教授)
- 「心が通う身体的コミュニケーション技術」 渡辺 富夫(岡山県立大学情報工学部)
- 「音楽を使ったケア・デザイン」 長田 有子(国立成育医療センター)

頒布価格(税込)

会員 1700円、非会員 1900円

『チャイルド・サイエンス VOL.2』(2005年8月発刊・60ページ)

もくじ

- 「子ども学会議・大会推進委員長から」
- 「子ども学とは何か一育つ育てる」 小林 登(日本子ども学会代表/東京大学名誉教授)
- 「野生のゴリラと野生の子ども」 山極寿一(京都大学大学院理学研究科)
- 「『子どもの安全・安心対策』を根本的に再検討する」 清永賢二(日本女子大学人間社会学部)
- 「子どものための建築環境デザイン」 柳澤要(千葉大学工学部)
- 「シンポジウム・徹底討論:幼児のメディア視聴は是か非か？」
司会:榊原洋一(東京大学小児科_現・お茶の水女子大学)
パネリスト:菅原ますみ(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)、谷村雅子(国立成育医療センター_研究所成育社会医学研究部)、土谷みち子(東横学園女子短期大学)
- 「シンポジウム・子どもとメディアの未来を考える」
司会:沢井佳子(チャイルド・ラボ)
パネリスト:岩谷 徹(ナムコ)、関 弘美(東映アニメーション)、廣瀬通孝(東京大学先端科学技術研究センター)、矢野直明(サイバーリテラシー研究所)
- 「世界中の子どもが鬼ごっこするのはなぜか」 島田将喜(京都大学大学院理学研究科)

『子ども学』ニュース

頒布価格(税込)

会員 1500円、非会員 1800円

ご意見などございましたら学会事務局までメール・ファックスなどでお知らせいただければ幸いです

「日本子ども学会」 登録変更届 / 学会誌注文用紙

(FAX 03-3368-2822) 記入日： 月 日

所在地やご担当者の変更がございましたら、お手数ですが、事務局までご一報ください。

お名前 _____

会員番号 _____

変更箇所 変更内容を具体的にご記入ください

注文号 (○をつける)

VOL1 (1700円・送料込)

VOL2 (1500円・送料込)

VOL3 (1800円・送料込)

注文冊数

VOL1 _____ 冊

VOL2 _____ 冊

VOL3 _____ 冊

領収書が必要ですか？

はい いいえ

↓

領収書の宛名を下記にご記入ください